

## 2年生の実践

- 1 主題名 温かい心を届けよう（2－（2）思いやり・親切）  
（資料名「ぐみの木と小とり」光文書院）

### 2 主題設定の理由

#### （1）価値観

児童の人格形成の基盤は、人と関わる力にあると言ってよい。様々な人と関わり、温かく豊かな人間関係を築いていく力は、児童にとって大切な力だと考える。幼い頃から人を大切にし、温かい気持ちで接していく習慣を身に付けていくことが、一人一人の児童に人と関わる力を育み、ひいては温かい社会の形成につながっていく。そのため、身近な人に親切にすることは小学校低学年から特に大切にしたい資質であり、それを学校生活で育んでいくことは大変意義深いことと考える。

この時期の児童は、社会体験が少しずつ積み重ねられてきた段階で、家族や仲のよい友達には思いやりの気持ちや親切な行為を素直に表すことができるようになってきている。そこで、親切にすることのよさだけでなく、難しさにも着目し、考えさせる活動を通して、価値理解とともに人間理解も図っていききたい。

#### （2）児童観（男子10名 女子11名 計21名）

本学級の児童は、友達の落とした物を拾ってあげたり、片付けが苦手な子に対して手伝ってあげたりするなど、友達が困っていたら声をかけ、助けてあげようとする場面が増えてきた。また、係活動や給食、清掃などの班活動を通して、友達と声を掛け合い、思いやりの気持ちをもって取り組むことができるようになってきた。帰りの会や「親切の木」の常時指導により、親切にしてもらった出来事を学級の人々に紹介し合うことで、親切にすることの喜びや意欲も育ってきた。また、生活科「町探検」や「1年生と仲良し」の学習では、地域の人や1年生と関わる体験もしてきている。国語科「スイミー」「うれしいことば」の学習では、主人公を通して友達のために考え、行動することのよさや人をうれしい気持ちにさせる言葉について学んできている。このような学習を通して児童は、思いやりのある人や優しい人は、友達に好かれるという意識が芽生えてきており、また自分もそのようになりたい、やってあげたいと考える児童が増えてきた。一方、そういう気持ちはあっても自分の興味・関心を優先させてしまい、困っている人に対し、見て見ぬふりをしたり、自分と関わりが少ない人に対しては無関心になってしまったりする場面も否めない。

このような実態から児童は、親切に関する様々な学習や体験を通して、思いやりの気持ちは育ってきているものの、親切にすることの大切さについてじっくり考え、深めることができているとは言えない。

そこで本時では、親切にすることの困難さに着目させながら、価値理解を図っていく。そして、困っている人などに温かい心で接し、親切にすることのよさと難しさを自分との関わりで考えさせながら、道徳教育の深化を図る。

#### （3）資料観

ある日、ぐみの木にお腹をすかせた小鳥がやってきた。小鳥は、ぐみの木に実をもらおう。そこで、毎日来ていたりすがこの頃来なくなったことを心配したぐみの木が、小鳥にりすのことを相談する。小鳥は、ぐみの実を持ってりすの様子を見に行くと、りすは病気で寝ていたが、ぐみの実を食べて少し元気になる。小鳥は次の日も届ける約束をするが、嵐になってしまい、小鳥は迷った末、嵐の中をぐみの実を持ってりすの所へ向かうという内容である。

嵐という困難な状況の中では、小鳥はりすのことを思って飛び立とうとする気持ちと、嵐がこわい、行きたくないという様々な気持ちが交錯する。この小鳥の葛藤する気持ちに十分共感させることで、親切に対する多様な感じ方や考え方を児童から十分引き出させたい。そして、親切にすることのよさと難しさを考えさせる活動を通して、価値理解や人間

理解を含めた他者理解を図っていく。小鳥の行動を通して、自分との関わりが少ない人であっても、困っている人や弱い立場の人がいたら思いやりをもって、温かい心で接し、親切にすることの大切さに気付かせることのできる資料であるとする。

### 3 指導方針

<事前>

- 帰りの会「今日のありがとう」において、友達に親切にしてもらってうれしかったことや、友達の思いやりの行動を伝え合う場を設け、親切な行為に対する意欲付けを行う。
- 友達の思いや考えを肯定的に聴くことや安心して話すことのできる温かい学級づくりに努める。
- 当番活動における班活動では、友達と声を掛け合い、思いやりの気持ちをもって役割分担したり、協力し合ったりしながら取り組めるよう、支援する。
- 生活科「1年生と仲良し」「町探検」において、幼い人や地域の方と関わり、親切にしてあげたりしてもらったりする体験をすることで、親切な行為の心地よさを味わわせる。
- 他学年と関わる縦割り班では、思いやりの気持ちと感謝の気持ちをもって楽しく活動ができるよう、支援する。
- 国語「お手紙」では、本時の道徳的価値を意識した学習を展開していく。
- 日頃の児童の身近にあった親切な行為を、「親切の木」として掲示し、紹介することで、親切にすることの大切さについて常時指導ができるようにする。

<本時>

#### 【課題をつかむ】

- 「親切の木」の掲示物を活用することで、ねらいとする価値への方向付けを図る。
- パネルシアター風に、登場人物の切り抜き絵や言葉を提示し、お話を紹介することで、場面理解を助ける。
- 小鳥の鳴き声や嵐の音の効果音を流すことにより、お話の雰囲気に浸らせる。

#### 【価値を追求する】

- 中心場面を浮き立たせる板書にすることにより、児童の興味・関心を引き出し、児童が資料の世界に入り込めるようにする。
- 考えの違いや多様さを対比的・構造的に示すことにより、小鳥の葛藤する気持ちを捉えやすくしたり、価値の自覚を深めることにつなげたりできるようにする。
- 低学年という発達段階を考慮して、主人公の小鳥の気持ちだけを追うような発問構成にする。
- 親切に対する多様な価値観に出会わせるため、小鳥の気持ちが交錯し、二つの自我が交錯する場面を中心発問とする。
- 役割演技では、お面やぐみの実の模型などを活用することで児童が主人公になりきり、児童の生活経験に基づいた、自分との関わりの中で考えられるようにすることで、小鳥の葛藤する気持ちに十分共感できるようにする。
- 役割演技や演技後の話合いが、ねらいとする道徳的価値の自覚が深められるよう、助言や補助発問を行い、コーディネートしていく。

#### 【価値の内面化】

- 振り返りの場面では、「親切にしたいと思ったけど、できなかったこと」「なぜ、できなかったのか」を考えさせることにより、価値理解だけでなく、人間理解も図っていくようにする。
- 児童一人一人に、1年生からのお礼の手紙を読ませることにより、親切な行為ができた自分を実感し、実践への意欲化を図り、価値理解を高めていくようにする。

<事後>

- 学級活動の時間などを使って、常時指導として道徳的価値を含む絵本の読み聞かせを行うことで、道徳的心情と実践力を醸成する。
- 生活科「昔遊び」で、地域の方やお年寄りの方と積極的に関わる場を設けることにより、温かい心で接する態度や親切にされる心地よさを味わえるようにする。

- 生活科「おもちゃランド」では、1年生を招待し、温かい心で接し、親切に接する態度を育てる。
- 学級通信で道徳の時間での話し合いの内容を伝えたり、授業で児童が使用するワークシートに家庭欄を設けたり、「わたしたちの道徳」を週末に家庭で読む宿題を出したりして、道徳的価値について家庭でも考える時間を設け、連携を図りながら実践意欲を育てていく。
- 「親切の木」を継続して行う。

#### 4 本時の学習

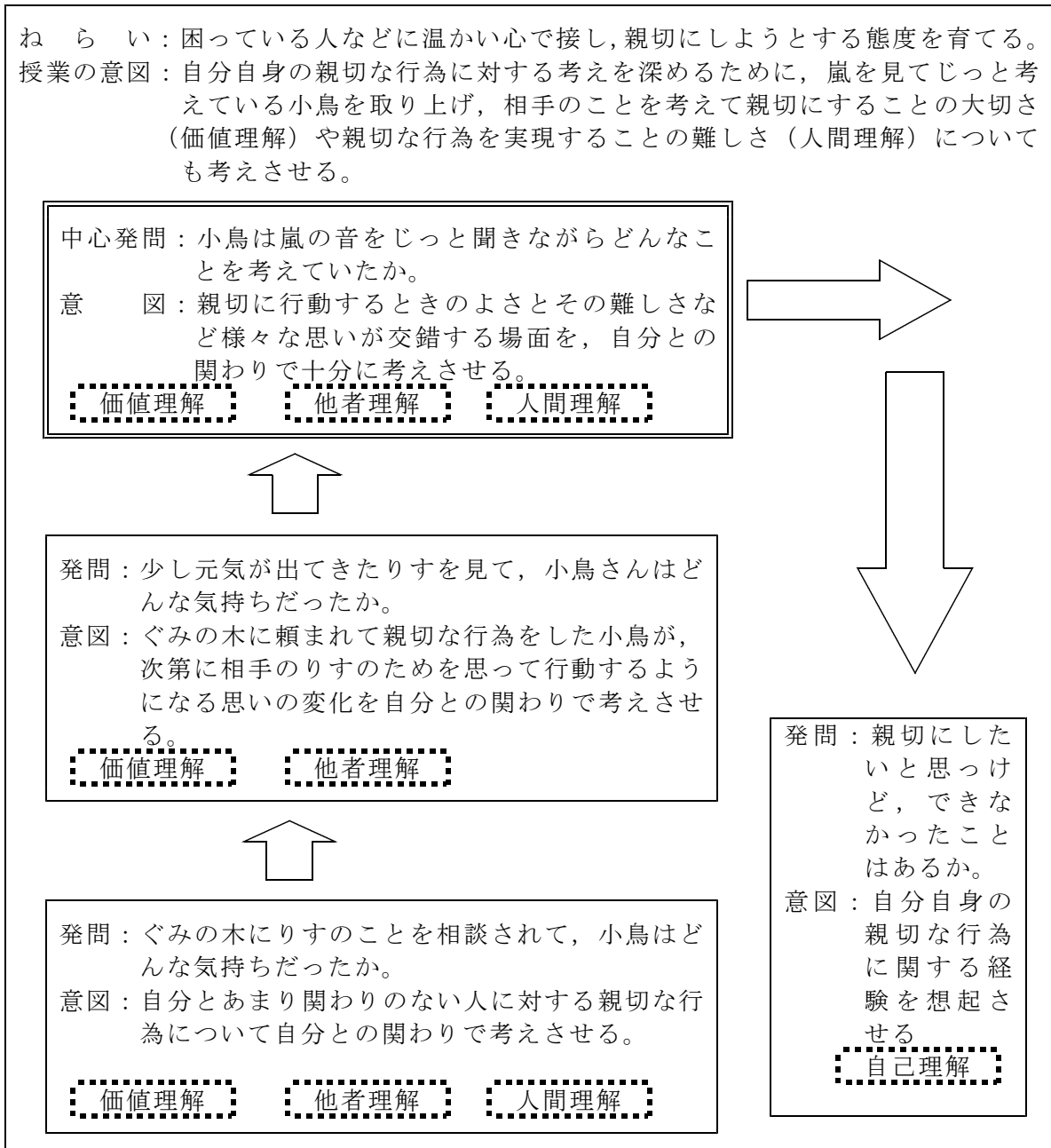
- (1) **ねらい** 困っている人などに温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる。
- (2) **準備** 教師：切り抜き絵 吹き出しカード ワークシート ぐみの木の模型  
1年生からの手紙 お面 嵐の効果音のCD  
児童：筆記用具

#### (3) 展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点
課題をつかむ	1. 「思いやりの木」の掲示物を見て、親切とはどういうことか発表する。 (親切にするってどんなことだろう。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助けてあげること</li> <li>・貸してあげること</li> <li>・やさしく教えてあげること</li> </ul>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しんせつ」に対するイメージを問うことで、ねらいとする価値への方向付けをする。</li> </ul>
価値を追求する	2. 資料「ぐみの木と小とり」を読んで話し合う。 (1) ぐみの木からりすのことを相談されたときの小鳥の気持ちを考える。 (ぐみの木さんから「友達のりすさんがこの頃来ないので心配です。」と聞いたとき、小鳥さんはどんな気持ちだったでしょう。) (2) 少しよくなってきたりすを見た小鳥の気持ちを考える。 (少し元気が出てきたりすさんを見て、小鳥さんはどんな気持ちだったでしょうか。) (3) 嵐の音をじっくり聞いて考えている小鳥の気持ちについて話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・りすさん、どうしたんだろう。</li> <li>・ぼくが代わりに行ってあげようかな。</li> <li>・病気になるのかな。</li> <li>【価値理解】</li> <li>【他者理解】</li> <li>【人間理解】</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喜んでもらえてうれしい。</li> <li>・また明日も行ってあげたい。</li> <li>・元気になってきてよかった。</li> <li>・役に立ててうれしい。【価値理解】</li> <li>【他者理解】</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">行けない</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こわいよう。</li> </ul>	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルシアター風に資料提示を行い、登場人物に親近感をもたせ、資料への興味・関心を喚起する。</li> <li>・嵐の場面では、効果音を流し、臨場感を出す。</li> <li>・小鳥とりすは、仲のよい友達ではないことをおさえ、考えさせる。</li> <li>・ぐみの実を喜ぶ姿や少し元気になったりすの様子からぐみの木に頼まれたからという理由だけでなくりすのために自分ができることをしてあげたいと思っている優しさに共感させる。</li> <li>・行けない小鳥、行こうとする小鳥など、立場を明確におさえてから数名の代表児童に役割</li> </ul>

<p>価値を追求する</p>	<p>し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>小鳥さんは、嵐の中、りすさんのところへぐみを届けに行くのだけれど、いろいろなこと考え迷ったと思うよ。どんなこと迷ったんだろうね (中心発問)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明日行けばいいや。</li> <li>・今行ったら危ないぞ。</li> <li>・この嵐では、絶対に無理だ。</li> <li>・どうしよう。行きたいけど・・・この嵐では無理かな。</li> <li>・ぼくが1日くらい行かなくても大丈夫だろう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>行こう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嵐の中飛んでいくのは危ないけど、りすさんがまっているだろうなあ。</li> <li>・りすさんと約束したから行かなくちゃ。</li> <li>・りすさんが心配だ。</li> <li>・りすさんが待てる。</li> <li>・りすさんのためにも、ぐみの木さんのためにも何としてもこの実を届けるぞ。</li> </ul> <p>【価値理解】 【他者理解】 【人間理解】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>演技をさせる。</li> <li>・即興的演技により、自分自身の親切な行為に対する感じ方や考え方を自覚できるようにする。</li> <li>・役割交代をさせ、一人の児童が異なった立場で役割演技を行うことにより、自分と異なる立場や思い、感じ方や考え方を尊重したり、理解したりできるようにする。</li> <li>・観衆の児童には、もし自分であればどう演じるか、何を語るかなど、演技を見る視点を明確に示しておく。</li> <li>・児童の感じ方や考え方の違いや多様さを対比的に捉えられたり共通性にも着目したりすることができるよう、吹き出しカードの色を工夫するなどして板書を分かりやすく整理する。</li> <li>・ぐみの実には、りすを想う小鳥とぐみの木の温かい心が込められていることに気付かせる。</li> </ul>
<p>価値を内面的に自覚する</p>	<p>3. これまでの自分を振り返る。 (今まで困っている人のために親切にしたいと思ったけど、できなかったことはありますか。)</p> <p>4. 1年生からのお礼の手紙を読む。 (みんなに1年生からお礼のお手紙が来ますよ。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生と流れるプールをした時、自分が泳ぎたかったから、手をつないであげるのを忘れてしまった。</li> </ul> <p>【人間理解】 【自己理解】</p> <p>【価値理解】</p>	<p>15分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書かせることで児童一人一人の価値の内面化を図る。</li> <li>・板書をもとに本時を振り返り、自分との関わりの中で親切な行為について自覚させる。</li> <li>・1年生からの手紙を読むことで、自己肯定感と実践への意欲化を醸成させ、余韻を残して終わりにする。</li> </ul>

## 5 資料分析図



## 6 授業記録（T：教師 C：児童）

T：小鳥さんは、嵐の中、りすさんのところへぐみの実を届けに行くのだけれど、いろいろなこと考えただろうね。ずいぶん迷ったと思うよ。どんなこと迷ったんだろうね。（中心発問）

「行けないと思っている小鳥」「行こうと思っている小鳥」という葛藤が生じる二つの自我を推定して演じさせる役割演技の手法をとった。

T：（「行けない」「行こう」のカードを渡しながら）これをつけたらC1さんは、りすの家にぐみの実を届けようと思っている小鳥、C2さんは、行けないと思っている小鳥です。

（観衆の子どもへの指示）

見ている人は、自分が小鳥だったらどうかを考えながら見て下さい。それでは始めましょう。

(即興的な演技)

C 1 : 外は嵐だけれど、りすさんが病気で寝ているから私が届けてあげなくちゃ。

C 2 : だって、こんなにひどい嵐だもの、行けないよ。

C 1 : でも、りすさんが待っているから。りすさんのために、絶対に届けてあげたいよ。

C 2 : でもさあ、嵐が怖いし、明日行けば、いいんじゃないかな。

C 1 : だめだよ。りすさんと約束したから、待っていると思うよ。

C 2 : でも、ぼくはこの嵐では無理だと思うな。

T : (演技の中断と話し合い) はい、そこまでです。それでは、見ていた人たち、小鳥の心の中はどうだったかな。



りすさんの所へ行ってあげたいけど嵐は怖いし・・・。  
やっぱり私は、迷って迷って迷っちゃいます。

りすさんが病気だし、絶対に行ってあげたいなあ。でも、風で翼が折れちゃいそうなんだよなあ。



T : 小鳥の心の中は、迷って迷っちゃってるんだね。それでは今度は、役を交代します。  
(「行けない」「行こう」のカードを交換して、再び演技する。) —中略—

(役割交代演技後)  
それでは、C 1 さんは○○  
C 2 さんは△△さんに  
戻ってもらいます。  
(カードとお面を外す)  
小鳥になってどんなことを  
思いましたか?  
(○○と△△は個人名)



ぼくは、最初絶対ぐみの実を届けると思っていたけど、何だか迷ってきました。

嵐だけれど、りすさんのために行こうと思った小鳥の気持ちは、よく分かりました。でも、私だったら、行けるか分からないなと思いました。

## 7 板書



## 8 成果と課題 (○成果 ●課題)

### 【課題をつかむ】

○黒板横に大きく掲示してある「親切の木」は、教師のこの授業に対する今までの積み重ねを表わしていた。

### 【価値を追求する】

- 小鳥のさえずりの効果音から始まり、児童はぐっとお話に吸い込まれていった。また、中心場面での嵐の効果音も児童の場面理解に有効だった。
- 黒板を舞台にしたパネルシアター風の資料提示を活用し、小鳥を動かしながら示すことで、児童の興味・関心を高めることができた。これにより、お話を聞いている児童がその内容や小鳥の立場などを理解しやすくなることができた。
- 葛藤が生じる小鳥の二つの自我を推定して即興的な役割演技を取り入れることにより児童は自分自身の考え方を問われることになり、自分のこれまでの体験に基づいたやり取りを行うことができていた。
- 役割交代をすることにより、一人の子どもが異なった立場で役割演技を行うことができ、自分と異なる立場や思い、感じ方や考え方など、多様な感じ方、考え方に出会うことで他者理解・価値理解を深めることができた。
- 役割演技の際、観衆となる児童に演技を見る視点を明確に示していた。これにより、演技をしている児童だけでなく、全員が参加している役割演技となっていた。また、演技後、観衆の児童と演技をしている児童が話し合うことで、価値理解・他者理解・人間理解を深めることができた。

### 【価値を内面に自覚する】

- 「親切にできなかったこと」を振り返り、ワークシートに書いたり、大勢の前で発表したりすることは児童にとって困難な場面かと思われたが、児童はスムーズに価値の内面化ができていた。
- 「親切にしてもらってうれしかった」という1年生からの手紙を読むことで、自己肯定感や実践への意欲の高まりを育むことができていた。また、相手意識をもたせることができた。
- 「親切にできなかったこと」だけでなく、「親切にできたこと」も振り返っても良かったのではないかと。

### 【全体を通して】

- 「考えさせる道徳の授業」となっており、授業の視点は十分達成されていた。
- 板書が大変見やすく、工夫されていた。